

令和5年度 学校評価報告（集計結果と考察・改善策）

【総合判定】 A(平均肯定率90%以上) B(平均肯定率80%以上) C(平均肯定率70%以上) D(平均肯定率70%未満)

【肯定率】 4段階評定の4と3の肯定的評価の割合(%)

【評定】 4:とても思う 3:やや思う 2:あまり思わない 1:全く思わない

評価領域	評価指標	総合判定	平均肯定率	対象	肯定率	評定(%)				考察と改善策
						4	3	2	1	
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルのもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	93	児童	97	66	31	2	1	「教育課程・学習指導」に関しては、昨年度とほぼ同様に高い肯定率である。引き続き、児童の実態を把握し、個々が学ぼうとする意欲を持続させながら学習に取り組めるようタブレット端末の活用等を含めた学習指導の創意工夫・改善に努める。今後は、主体的で対話的な深い学びに向かう学習指導に力を入れていきたい。また、体力づくりにも注力し、心と体の双方を鍛錬していく指導を継続する。
				教職員	93	25	68	7	0	
				保護者	89	12	77	9	2	
	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICT機器を活用している。	A	94	児童	96	64	32	3	1	
				教職員	97	54	43	3	0	
				保護者	89	20	69	10	1	
	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	93	児童	96	69	27	3	1	
				教職員	97	32	65	3	0	
				保護者	87	12	75	12	1	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	92	児童	90	72	18	7	3	「人権・同和教育・生徒指導」に関しては、今後も個に応じたきめ細かな配慮を心掛けたり、様々な人とよりよい関わりができるよう助言したりして児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。また、生徒指導部会等で情報を共有し、教職員が共通理解して指導するようにする。
				教職員	97	58	39	3	0	
				保護者	88	11	77	11	1	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導や支援を行っている。	A	93	児童	94	65	29	5	1	
				教職員	100	65	35	0	0	
				保護者	86	14	72	11	3	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	B	86	児童	91	62	29	8	1	コロナ禍で制限があった体験活動を見直しながら、さらにキャリア教育の推進に向けてカリキュラムの実践を重ねていく必要がある。
				教職員	93	21	72	7	0	
				保護者	75	7	68	22	3	
安全管理	学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	96	児童	96	77	19	3	1	校内外での安全な過ごし方の指導や地域や保護者の見守りを今後も連携して行っていくなど安全指導を継続する。
				教職員	97	83	14	3	0	
				保護者	94	23	71	5	1	
保健管理	学校は、個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康保持・増進に努めている。	A	97	児童	97	74	23	3	0	「保健管理」に関しては、組織的に感染症予防に取り組んでいる。引き続き「換気の確保」や「手指衛生等の指導」など状況に応じた対策を行うとともににも感染状況をメールで知らせるなどして感染症の拡大を防ぐよう努める。
				教職員	100	58	42	0	0	
				保護者	93	18	75	6	1	
	学校は、「換気の確保」や「手指衛生等の指導」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。	A	96	児童	94	67	27	5	1	
				教職員	100	65	35	0	0	
				保護者	93	20	73	6	1	

特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって教育活動に取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	94	児童	96	74	22	3	1	「特別支援教育」の視点で個を大切にしたい配慮や支援を今後も継続していく。また、教育相談を充実させ、保護者の思いをしっかりと受けとめ、関わりを充実させていく。
				教職員	97	54	43	3	0	
				保護者	88	14	74	10	2	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	92	児童						「組織運営」に関しては、教職員の組織的な対応により、保護者との信頼関係を築けていると思われる。今後も継続していくようにする。
				教職員	97	61	36	3	0	
				保護者	87	7	80	11	2	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	A	91	児童						教職員でタブレット等の効果的な活用法について研修を行っている。また、主体的・対話的で深い学びについて今後も、授業研究等を通して、授業力の向上に努める。
				教職員	97	58	39	3	0	
				保護者	84	10	74	14	2	
保護者・地域連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	94	児童						「保護者・地域連携」に関しては、今後も地域と保護者の連携について見直しを行い、実施していくようにする。「情報提供」に関しては、昨年度はB評価であったが、今年度はA評価である。日々、ホームページの更新を行うことで、児童の活動の様子を積極的に発信するよう一層努める。
				教職員	100	68	32	0	0	
				保護者	88	15	73	11	1	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信している。	A	95	児童						
				教職員	100	50	50	0	0	
				保護者	89	22	67	10	1	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	92	児童						今年度は教室や掲示コーナーの展掲示について、充実させることができた。毎時間の学習における言語活動の充実さらに力を入れる。
				教職員	93	40	53	7	0	
				保護者	90	12	78	10	0	
幼・保・小・中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	B	85	児童						「幼・保・小・中連携」では、1項目に関して、昨年度はC評価であったが今年度は、B評価に上がっている。中学校との連携について授業実践や行事参観等を行ってきた。今後も、実践を継続しながら、個々の児童に基礎的な学力が定着するように努めていく。また、幼稚園や保育園との連携は、感染症対策に留意し、交流等を行うように計画を立てていきたい。保護者に連携の様子を理解していただけるよう情報提供に努める。
				教職員	94	36	58	3	3	
				保護者	76	11	65	20	4	
	学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	B	83	児童						
				教職員	90	29	61	7	3	
				保護者	75	9	66	21	4	
	学校は、関係園・校で連携し、児童に対する教職員の理解や、児童の相互理解の促進を図っている。	B	83	児童						
				教職員	90	36	54	7	3	
				保護者	76	11	65	21	3	
お子さんは、学校に楽しく通っている。	A	94	児童	97	86	11	2	1	児童は、今年度も概ね楽しく学校に通い、学校生活において思いやりの気持ちをもって仲良く活動できている。しかしながら、「家庭学習の習慣」「読書」に関しては、D評価、「学年に応じた基本的な学力」「家の手伝いや仕事」に関しては、C評価である。「家庭学習の習慣」については、昨年度もD評価であったため、教職員で家庭学習の習慣化と定着を図るため、粘り強く	
			教職員							
			保護者	91	40	51	8	1		
	お子さんは、家庭や地域で挨拶ができる子に育っている。	B	85	児童	86	49	37	11		3
				教職員						
				保護者	84	22	62	15		1

その他

お子さんは、友達を思いやり、仲よく活動できている。	A	96	児童	96	69	27	3	1
			教職員					
			保護者	95	34	61	5	0
お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。 学年×10分+10分 (例)6年生 6×10+10=70(分)	D	66	児童	85	45	40	12	3
			教職員					
			保護者	47	14	33	40	13
お子さんは、学年に応じた基本的な学力が身に付いている。	C	73	児童					
			教職員					
			保護者	73	12	61	23	4
お子さんは、読書に親しんでいる。	D	58	児童	74	45	29	17	9
			教職員					
			保護者	41	14	27	43	16
お子さんは、家の手伝いや仕事ができる子に育っている。	C	76	児童	82	48	34	15	3
			教職員					
			保護者	70	18	52	26	4
学校のことについて家の人とよく話している。	B	86	児童	86	58	28	10	4
			教職員					
			保護者					
堀江小学校は安心して通える学校である。	A	95	児童	95	77	18	3	2
			教職員					
			保護者					

指導を継続している。児童は肯定率が比較的高いが、保護者との評価の差が大きい。この要因を踏まえつつ、家庭との連携を図りたいと考える。「読書」に関しても、児童と保護者の評価の乖離が大きい。家庭での読書には児童と保護者ではイメージの違いがあるのかもしれない。家庭での教育力を高めていくチャンスとして「読書」の評価項目が高まる工夫を模索していきたいと考える。

制限が緩和され行事などが行えるようになったことで、学校での出来事について保護者に伝える児童が増えてきている。このような取組を通して、安心して通うことのできる学校づくりに努めていきたい。